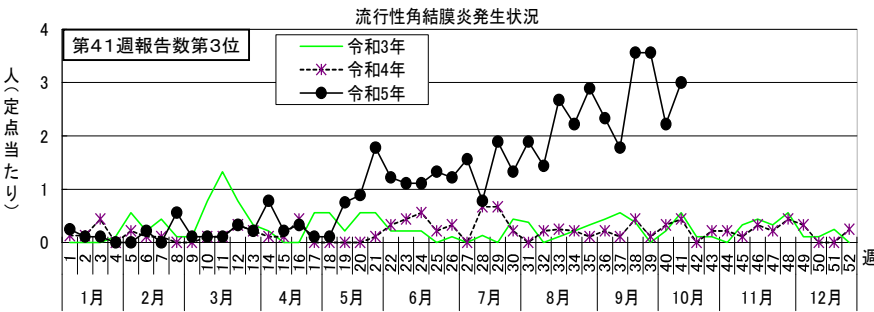
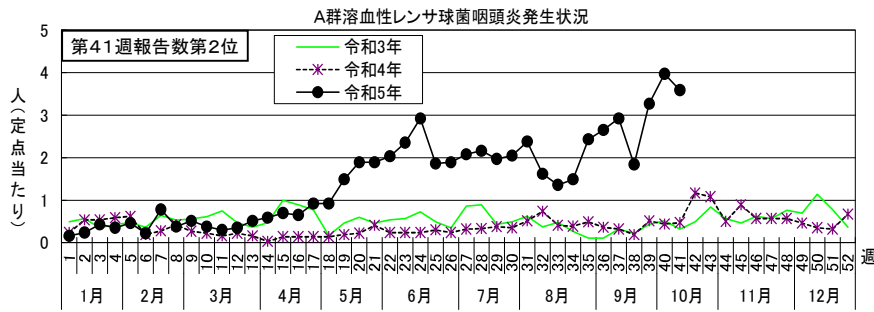
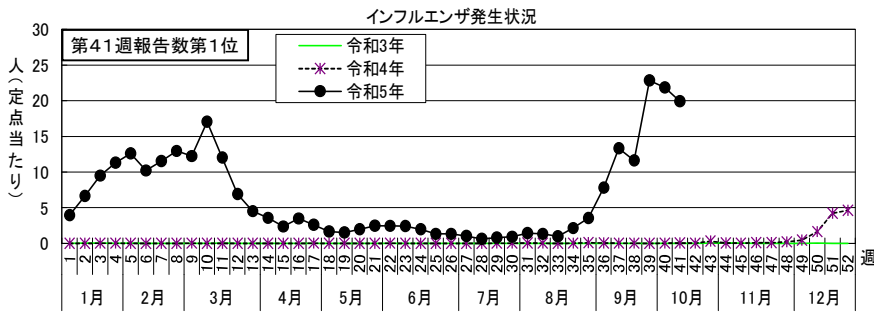


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年10月9日（月）～令和5年10月15日（日）〔令和5年第41週〕の感染症発生状況

第41週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は19.92人と前週（21.85人）から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.59人と前週（3.97人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は3.00人と前週（2.22人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

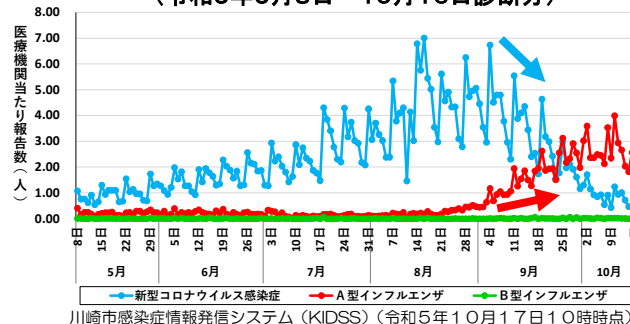


インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の現状

川崎市における新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は9月上旬から減少していますが、インフルエンザの報告数は同時期から増加しています。本市のリアルタイムサーベイランスにおいても同様の傾向がみられ、9月中旬以降は、インフルエンザの報告数が新型コロナウイルス感染症の報告数を上回っています。

インフルエンザのリアルタイムサーベイランスでは、今シーズンは報告のほとんどがA型です。また、健康安全研究所に搬入された検体からも、A型インフルエンザウイルスが多く検出されており、A香港型に加えて、AH1pdm09型も検出されています。感染拡大防止のため、基本的な予防対策に加え、ワクチン接種も是非御検討ください。

川崎市における新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザのリアルタイムサーベイランス医療機関当たり報告数推移（令和5年5月8日～10月16日診断分）



川崎市におけるインフルエンザウイルス検出状況—令和5年第1週～第41週—

